

消防隊はないのかって——。もちろんあるよ。大きな町の方だけど。

町の方に行くと、大きなビルやデパートもあるし、家もほくの町よりずっとくっついているから、本物の消防隊員が早く力を合わせて消火しないと被害が大きくなるんだって。だから、消防署が一つと出張所が三つあって、はしご車とかポンプ車とか化学車なんかがそろっている。とってもかっこいいよ。

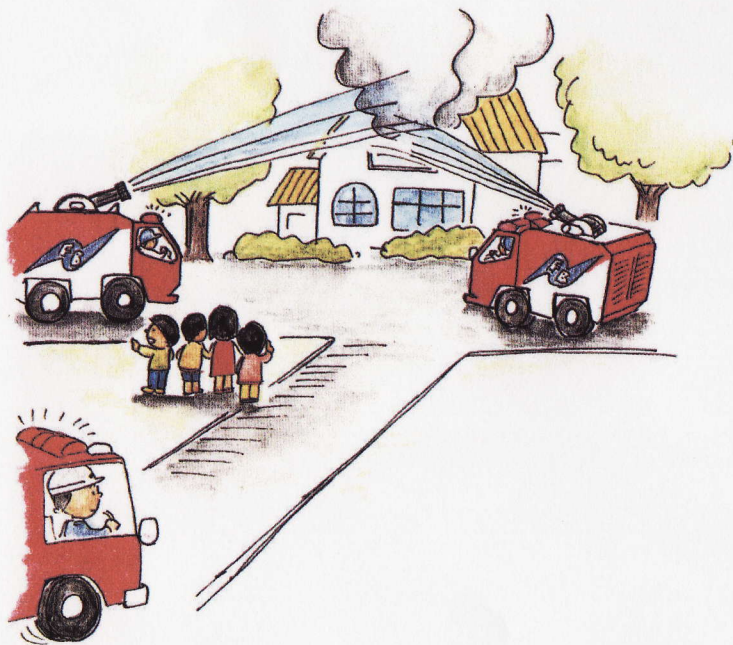
町にはファイアバード隊がないんだ。町に住んでいるタツ君なんかは、おとうさんに、ファイアバード隊員になってほしいってたのんでいるんだけど「本物の消防隊があるからファイアバード隊は必要ない」って市長さんから言われているらしい。

N市はとっても広いから、町の中心から遠くはなれている所では、出張所をたくさんつくって、消防隊がすぐかけつけてくれればいいんだけどそうもいがないんだって。

昔は、町からはなれた所の火事は、消防団がぜんぶ消していたんだけど、団員がだんだんへってきたし、若い人たちは団員になっても昼間は遠くに働きに出がけているたろ。何年前に、となり町で火事があったんだけど、風の強い日で家がたくさん燃えたんだ。消防団員があまり集まらなかったで、なかなか火を消せなかったんだって。それは消防団が形だけのものになっていたからいざという時、役に立たなかったらしい。

それで、N市では市長さんが、消防隊と消防団のほかにはファイアバード隊をつくったんだって、先生が教えてくれた。

ほくんちのあたりは、火事になると消防署の管制センターから無線で連絡が入って、まずファイアバード隊がかけつけて放水砲で消火することになっている。もちろん、無線機も市から貸してもらっていて、おとうさんの仕事場においてあるんだ。



おとうさんのチームだけでファイアバードが4台あるし、ミキちゃんのおかあさんのファイアバード4号みたいに大型もあるから、ふつうの火事ならファイアバード隊だけでなんとか消せるみたい。

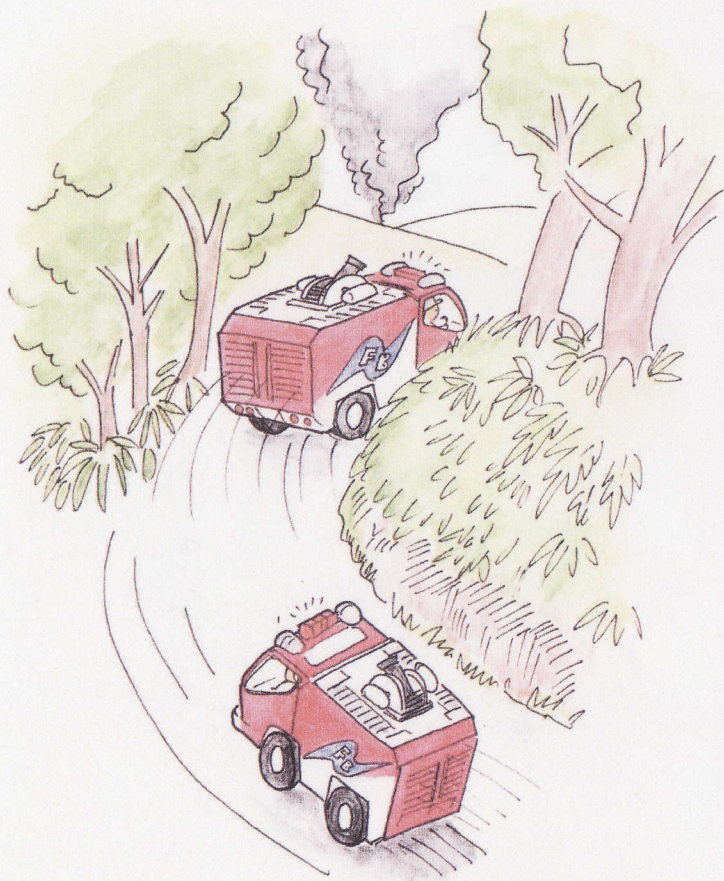
町の中心にある消防署や近くの出張所の消防隊が、この辺に到着するまでには20分以上かかるから、消防隊が着くころには、もう火は消えていることが多いらしい。

火事の際には、水をかけて消火するだけが消防の仕事じゃないんだけど、ファイアバード隊は、とにかく早くかけつけて消火するという仕事だけをまかされているんだって。

ファイアバード隊が、火事を消したり、ほかの家に燃え移るのをふせいたりしている間に、消防隊や消防団がだんだんかけつけて来ることになっているんだ。消防隊や消防団は、火事後のしよ理や原因の調査をしたり、けがをした人がいたら救急車で病院へ運ぶ仕事をする事になっているんだって。

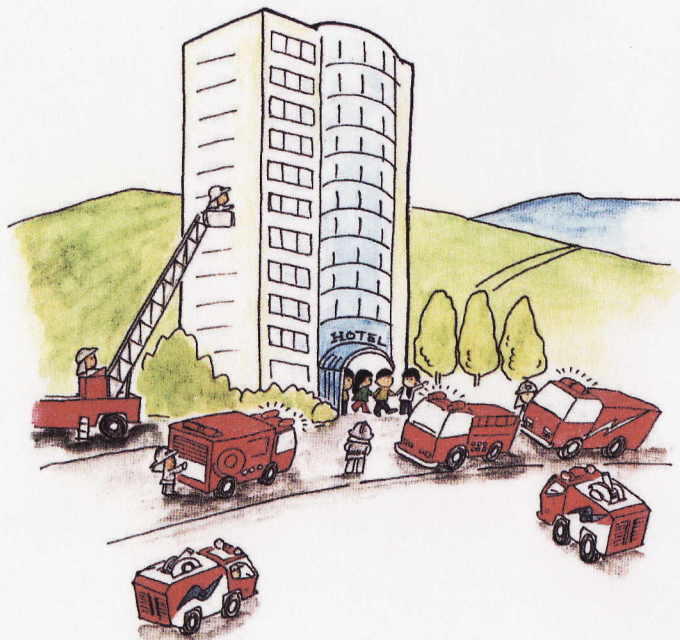
到着した時、まだ燃えていればもちろん消火もするけれど。





山のふもとの村で火事になった時には、お年寄りのファイアバード隊が出動するので、まわりのファイアバード隊が応援にかけつけることになっているんだって。町の消防隊が到着するのに30分以上かかる所もあるから、応援ファイアバード隊はずいぶんたよりにされているみたい。

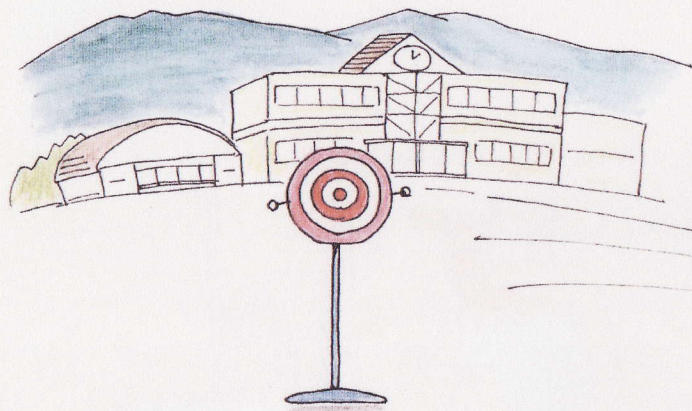
今年も一度、山のふもとの村で火事があって、管制センターからの連絡でうちのおとうさんたちが出動したんだ。住宅の火事が大きくなって、まわりの木に燃え移って、山火事になりそうになったのをくい止めたんだって。帰ってきて、じまんしてた。



うちのそばに大きなリゾートホテルがあるんだ。ぼくが生まれる前に、長野でオリンピックがあったんだけど、その時できたんだって。この前、そこでボヤがあったんだけど、ファイアバード隊は、まわりの家に燃え移らないよう警戒していただけだったみたい。あんな大きな建物だとファイアバードの放水砲で水をかけたって消えないかららしい。

大きなホテルには、自衛消防隊がいて消火したり、お客さんの避難や誘導をする。スプリンクラーもあって火が出ても小さなうちに火を消し止めることができる。燃えている建物の中に入って、消火や救助をするのは、訓練を積んだ本物の消防隊員じゃないとやっぱり無理なんだって。

市長さんから「ファイアバード隊の役目は、ふつうの住宅の火災がほかの家に燃え移っていくのを防ぐことだ。」って言われているんだ。隊員が車からおりて、あぶないことをするのはとめられているらしいんだ。ぼくのおとうさんは、スーパーマンみたいにすごいから、燃えている建物の中から、たおれている人を助け出す仕事だってきっとできると思うんだけどなあ。

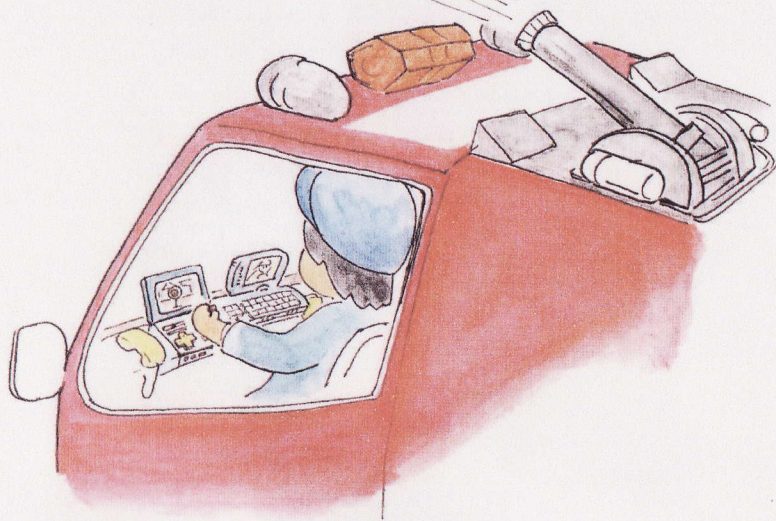


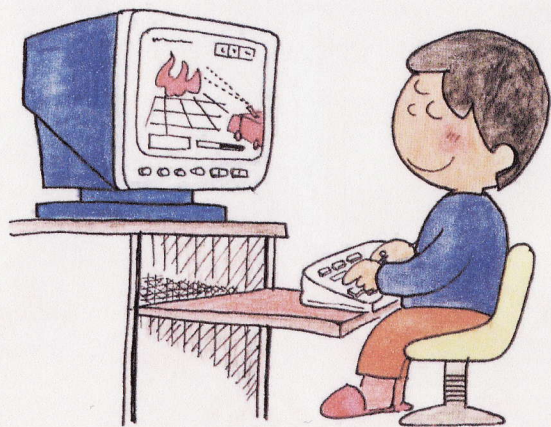
このごろ、練習の時にお姉ちゃんがファイアバード1号に乗ってるんだ。コントロールパネルで放水砲をコントロールして水を的に当てる役。「コントローラー」って言うんだ。

小学校6年生になると、ファイアバード隊員の判断で、練習のときだけコントローラーになれるんだって。お姉ちゃんばかりなんてずるいよ。ほくは、まだ4年生だからしかたないけど、本当はほくの方が放水砲のコントロールはうまいんだから。

ところで、ほくんちのあたりでは1年に1、2回しか火事がないたろ。実戦が少ないから、おとうさんのチームは2ヵ月に1回は練習のために集まっている。場所は、小学校の校庭が多いみたい。

実際に放水砲から水を出して的に当てる練習と、チームで行うフォーメーションプレーの練習が中心らしい。車のタンクが空になった時に、どこかから水を取って、ファイアバードをつないで水を送って消火する練習もよくやっているみたい。





なぜ、そんなことがわかるのかって？

だって、放水砲のコントロールパネルとそっくりのシューティングゲームがうちにあるんだもの。市が貸してくれてるんだ。ほくなんか、おとうさんがファイアバード隊員に選ばれた幼稚園のころからずっとやってるんだ。だから、目をつむってたって、百発百中だし、どんなフォーメーションだって完ぺきなんだ。

早く6年生になって本物のパネルで放水砲をコントロールしてみたいよ。おとうさんやお姉ちゃんよりうまいよ、ぜったい！

練習だけじゃないよ。早く大きくなってほくもファイアバード隊員になりたいな。そんなこと言うと、「そんなにファイアバードが好きなら、本物の消防隊員になったら？」って言われちゃう。

おとうさんみたいにアマチュア無線の資格を取ったり、山岳救助隊の資格を取ったりするだけじゃなくて、ミキちゃんのおかあさんみたいに大型特殊の免許を取ったり、レースに出る資格も取りたいな。それから英語、ドイツ語、中国語……。

ファイアバード号につばさがついて、空をとべるようになったらもっとすごい。

みーんなできるようなれば、世界中の災害に出動して、火を消したり、人を助けたりすることができるかもしれない。

「そんなすごいことができれば、ファイアバード隊員じゃなくてスーパーバード隊員だね。だから、一生けんめい勉強しなくちゃ。」って、おかあさんにいつも言われちゃうんだ。

そんなことを言われると、かえってやる気がなくなっちゃうっておかあさんはわからないのかなあ。

